

Report on 勉強会テーマ N 午後「パパラチア」

／JGS ニュースレター2017年19号（8月発行）

会員 A

今回も驚きの勉強会であった。

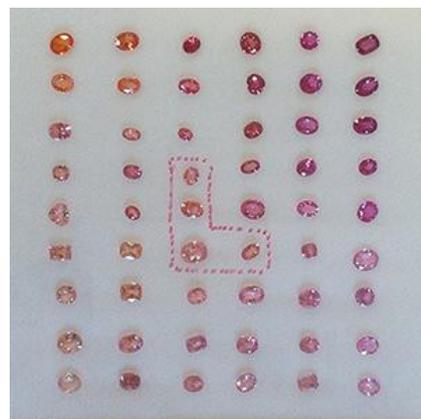
パパラチア・サファイアのカラー範囲は、とても狭い！ 理想的な色味は、ピンキッシュ・オレンジから、オレンジッシュ・ピンク、と雖も実際にパパラチア・カラーと呼べる石が稀産であると痛感させられた。



理想の色の範囲外として、リジェクトされた石の大量さと、充分綺麗である事にも驚愕させられた。

これらの石は、ピンク味が強すぎたり、オレンジ味が強すぎたり、あるいは、色溜まりが原因で、パパラチア・サファイアとは呼べない！とされたものだが、宝飾に向かないという訳ではない。しかし、理想的な色の範囲内のパパラチア・サファイアに比べると、やはり、物足りなさを拭えない。

次なる驚愕は、退色実験。パパラチア・サファイアを含め、オレンジ系からピンク系のサファイア複数個（かなり贅沢な実験材料）を講義中に退色させてしまうという荒技。同じ環境下で、退色の激しいもの、変化の少ないものなど個体差があり、一概には言えないが、パパラチア・カラーの着色原因と退色の関連性が可視化され、面白い！と思った。（写真上：退色前、写真下：退色後）



日本宝石協会の勉強会では、毎度、驚かされる実験や業界人の旬な話しを聞く事が出来、楽しく参加させて頂いている。今回の勉強会では、協会員ではない方と同席させて頂いた。その方は、教材のパパラチア・サファイアと色を比べる為に、以前ご自身がパパラチア・サファイアとして購入された石を持参されていた。この方の様に、解明したい疑問を持つジュエラーは、沢山いると思うので、学びの場を提供している日本宝石協会の活動がもっと広く知られる事を望む。